

事業計画書

事業名	地域住民の健康維持に役立つように言語聴覚士の知識や技術を生かす
実施場所	C&Cセンターきぼう：沼津市今沢365-1
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 2022年4月1日　～2023年3月31日

◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載して下さい（事業の紹介などで使用します）。

言語聴覚士は「食べる、聞く、話す」を対象とするリハビリ専門職である。携わる人数は少なく地域住民が生活の中で「食べる、聞く、話す」ことに関して問題を感じても言語聴覚士に直接出会えない。そこで①一般市民向けの言語聴覚士の相談窓口の設置（市民対象・1回/2ヶ月3時間程度）②「聞く・食べる・話す」ことに問題を感じる当事者や介護者、療育者の集いの場（1～2回/年3時間程度）を実施したいと考える。

◎目的

※何を目的として実施する事業であるか（事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか）を記載して下さい。

【課題】

言語聴覚士が対象とする「食べる、聞く、話す」領域は健常者であっても生活を送る上でとても大切である。（例えば離乳食をうまく食べられない小児・加齢によって活舌が悪くなった高齢者など）しかし問題を感じても静岡県東部の地域で活動する言語聴覚士人数は少なく身近で相談はできない。（沼津市通所リハビリ2名・訪問看護ステーション1.8名）また様々な理由で嚥下障害や言語障害・高次脳機能障害を負って退院し在宅療養を送る場面になり対応に苦慮する当事者や介護者に多く出会う。

【解決】

専門職が主体となり「相談の場＝ターゲットは一般市民をイメージ」「集いの場＝ターゲットは介護者や当事者をイメージ」の創出が必要と考える。

◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
令和4年4月	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。 (相談の場) 会場の予約および開催日時決定・備品購入・ボラ保険加入 →広報(居宅?市役所?学校?保健センター?) (集いの場) 計画立案、スタッフ決定
5月	(集いの場) 打合せ① 【共通】 賛助会員募集案内チラシ作成
6月	(相談の場) 第一回開催(土曜日、午後1~4時) (集いの場) 打合せ② 【共通】 賛助会員募集案内チラシ印刷・アンケート作成
7月	(集いの場) 打合せ③ 【共通】 参加者へアンケート実施・チラシ配布
8月	(相談の場) 第二回開催(土曜日、午後1~4時) (集いの場) 打合せ④ 参加者募集声掛け
9月	(集いの場) 打合せ⑤ 【共通】 参加者へアンケート実施・チラシ配布
10月	(相談の場) 第三回開催(土曜日、午後1~4時) (集いの場) 開催<言語障害・高次脳機能障害> 【共通】 参加者へアンケート実施・チラシ配布
11月	(集いの場) 打合せ⑥(反省および次回企画) 【共通】 参加者へアンケート実施・チラシ配布
12月	(相談の場) 第四回開催(土曜日、午後1~4時) (集いの場) 打合せ⑦
令和5年1月	(集いの場) 打合せ⑧ ほかの言語聴覚士へ声掛け 【共通】 参加者へアンケート実施・チラシ配布
2月	(相談の場) 第五回開催(土曜日、午後1~4時) (集いの場) 開催<嚥下障害> 【共通】 参加者へアンケート実施・チラシ配布
3月	(相談の場) まとめ (集いの場) まとめ 【共通】 アンケートまとめ→次年度の計画立案

◎事業効果

<p>※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食べる、聞く、話す」に困っている一般市民や当事者・介護者の相談の場を作り対応できる。 ・対象な小児から高齢者まで年齢を問わない ・当事者や介護者同志の悩みを共有する場を提供できる(ピアカウンセリング) ・広報を通じて言語聴覚士に関する啓発ができる ・事業の協力者として地域で活動する言語聴覚士を発掘することができる 			
成果指標	<p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。</p> <p>相談窓口利用者：合計10名以上 集いの場利用者：合計5名以上 (アンケート実施) →次年度のテーマ創出</p>	指標の検証方法	<p>※左記指標の検証方法を記載して下さい。</p> <p>名簿作成(スタッフ及び参加者) アンケート結果分析し結果より 次年度の事業内容を決定</p>

◎評価の視点に合致していることの説明※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<p>公益性 ・ 必要性</p>	<p>相談の場に関しては対象を一般市民とするため公益性は高いと考える。 集いの場に関しては、孤立しがちな言語障害・高次脳機能障害の当事者や 嚥下障害の家族を対象としており、身近では得られにくい言語聴覚士の技術や 知識を共有でき有益であると考え。 また事業の遂行によって「食べる、聞く、話す」領域への認識が深まり問題意 識が育つこと、言語聴覚士に関する啓発が行えるのではないかと考える。</p>
<p>地域性</p>	<p>他のリハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士）に比し言語聴覚士 の人数は少ない。（静岡県の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 *いずれも 職能団体への登録数）中でも静岡県東部で病院ではなく地域で活動する言語聴 覚士人数は更に少なく気軽に相談できない状況である。（例：沼津市通所リハビ リ2名・訪問看護ステーション1.8名）</p>
<p>先導性</p>	<p>担当者は沼津市を拠点とし訪問言語聴覚士として働いて8年目となる。言語聴 覚士が対象とする「食べる、聞く、話す」領域は人間らしく生活を送る上でとて も大切だと思うがその領域に問題を感じていても放置されていることが沼津市 周辺では多いと感じる。それは言語聴覚士の少なさに起因するのではないかと 感じる。現在は一般住民が気軽に言語聴覚士に相談できる場や介護者または当 事者の集いの場はない。それらを設けることで一般住民の領域への認識を深め ることができ、実際に健康維持や人間らしさの維持に貢献できるのではないかと 考える。</p>
<p>発展性 ・ 継続性</p>	<p>※発展性：活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 ※継続性：本ファンドによる助成終了後も継続的・自立的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などに どのように取り組んでいくのかについて記載して下さい。 これらの事業を通して、沼津市周辺に在住の言語聴覚士に声をかけ活動への 参加を促してゆきたい。実際に住民と触れあうことをきっかけにして地域で 活動する言語聴覚士が一人でも増えて一般住民にとり身近な存在となると よいと考える。 活動資金に関しては、これらの事業内容を紹介することでNPO法人はるか の賛助会員への登録を促し、賛助会費を納めて頂くことを念頭に置いている。</p>
<p>実現性 ・ 妥当性</p>	<p>※実現性：事業目的と事業内容は合致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュ ール等について工夫した点を記載して下さい。 ※妥当性：各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。 相談の場に関しては稼働する言語聴覚士は現時点では一人であるため、無理 のないように開催を低頻度とした。（1回/2か月）また会場に関しては法人 の正会員の関わる研修センターを利用する予定である。集いの場に関しては スタッフは正会員を中心に打診済である。いずれもボランティアであるため ボランティア保険に加入し不測の事態に備えたい。またコロナ感染対策とし ては相談の場は十分な感染対策を行った上での対面、集いの場はオンライン 開催（Zoom）に切り替えて開催したいと考える。</p>
<p>活動に 対する 熱意</p>	<p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。 2020年4月1日にNPO法人はるかを設立し2年が経過した。収益事業としての 訪問看護事業が少しずつ軌道にのり、本来の起業目的であった「言語聴覚士の 技術や知識の提供」ができるように今回の活動を企画した。NPO法人はるか を育てて頂いたお礼として、また訪問言語聴覚士として私を育てて頂いたお礼とし て社会貢献を少しでもさせて頂きたいと考えている。</p>